

漁況予報 い わ し

第212号

【2019年3～4月漁期】

※1 平年：過去5年平均

※2 被鱗体長：口先から尾ビレの付け根までの長さ

= 概 況 =

【マイワシ】

主要定置網におけるマイワシ総漁獲量は、1月は0トンで、前年（14トン）および平年^{*1}（78トン）を大きく下回りました。2月は13トン（速報値）で、前年（1トン）を上回り平年（12トン）並でした。

まき網は、佐島地区で2月に入り餌イワシとして漁獲がありました。

魚体は、2ヶ月とも被鱗体長^{*2}（以下同）10～14cmの2018年生まれの1歳魚主体でした。なお、漁業調査指導船「江の島丸」が1～2月に利島、三宅島三本漁場等でさば資源調査を行った際、昨年引き続き18～20cmモードの成熟した大羽マイワシが多く混獲され、今年も産卵のために集群していることがうかがえました。

【カタクチイワシ】

主要定置網におけるカタクチイワシ総漁獲量は、1月は1.7トンで、前年（0トン）並で平年（105トン）を大きく下回りました。2月は35トン（速報値）で、前年（2トン）を上回り平年（264トン）を大きく下回りました。

佐島地区（1ヶ統）のまき網は、餌イワシとして散発的に漁獲がありました。

魚体は、6～10cmの未成魚～小型成魚主体となりました。

【シラス】

前号でお知らせしたとおり、当所ではしらす船曳網漁業連絡協議会の協力により、今年もシラスの禁漁期間中（1月1日から3月10日）に、相模湾内で試験操業を実施しました。1月は江ノ島異以西を中心に広い範囲で反応があり、マシラス主体の採集がありました。長井（荒崎）沖では、表層曳きで新仔の来遊も確認できました。2月の調査では、茅ヶ崎および平塚地先で大きな反応がありました。しかし、3月の調査では全域で反応がなくなりました。

このことから、解禁直後の漁は厳しいと言わざるを得ない状況ですが、沖合域にはマシラスが多くいると考えられ、暖水波及があれば一気に好転する可能性もあります。

漁期入りは4月になるでしょう。

= 予 報 =

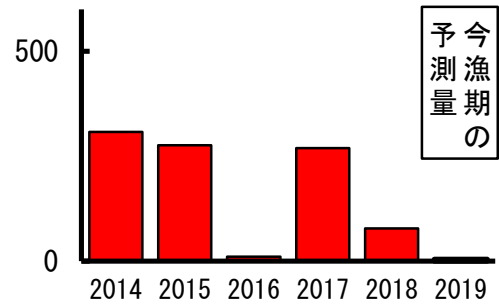
過去5年の3・4月漁期の漁獲量と
今漁期の予測量

【マイワシ】

今漁期は、2019年生まれのヒラゴ（6～10cm）が漁獲の主体となるでしょう。ヒラゴは4月に入ってから早期発生群の漁獲があるでしょう。

今漁期の漁獲量は、前年を下回る約5トンと予測されます。

トン マイワシ



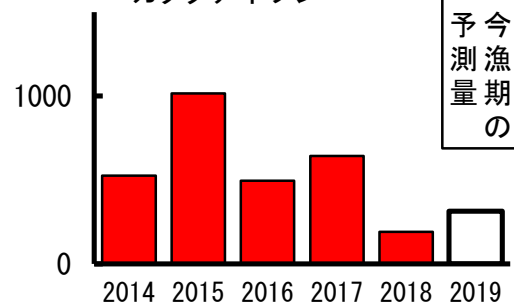
※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

【カタクチイワシ】

今漁期は、引き続き2018年生まれの未成魚～小型成魚（8～10cm）が漁獲の主体となるでしょう。

今漁期の漁獲量は、1～2月の県内主要定置網の漁獲量から、前年を上回る約314トンと予測されます。

トン カタクチイワシ



※グラフ縦軸：主要定置網+まき網

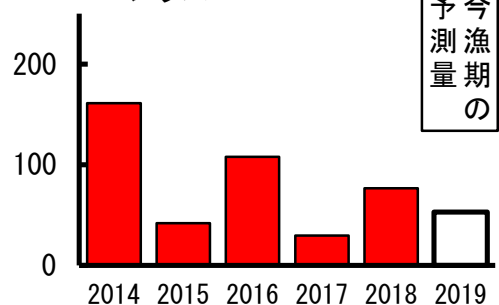
【シラス】

今漁期は、2月以降に生まれたマシラスが多い漁模様になると思われ、4月に入るとカタクチシラスが増えてくるでしょう。

相模湾内の水温は14～15℃台とシラス来遊・滞留には良い環境にあります。

今漁期の漁獲量は、親魚との関係から前年を下回る約53トンと予測されます。

トン シラス



神奈川県水産技術センター企画資源部
三浦市三崎町城ヶ島 (046) 882-2313